

巻頭言：地域資料に新しい光が当たる時代・・・・・・・・・・・・・・・・	1
特集1：「第24回 図書館総合展 2022_ONLINE_plus」出展報告・・・・・・・・	2
特集2：新規加盟館紹介 星槎大学図書館情報センター（横浜キャンパス図書館）・・・・・・・・	3
連載：わたしのイチオシ 川崎市立図書館「フロンターレ選手と本を読もう！」・・・・・・・・	4

地域資料に新しい光が当たる時代

神奈川県図書館協会 地域資料委員会委員長（小田原市立中央図書館）佐次 安一

新年あけましておめでとうございます。

昨年度より神奈川県図書館協会地域資料委員会委員長を務めております、小田原市立中央図書館の佐次です。本年もよろしくお願いたします。

インターネットとデジタル化の進展は世界の距離感を飛躍的に縮め、多様なコンテンツが日々爆発的に生み出されていきます。そんな中、ひっそりとそれでいて力強く光を放つ唯一無二のもの、それが地域資料という存在ではないでしょうか。

地域資料委員会では数年来、1993年発刊の県内の特別コレクションを集大成した要覧「神奈川のふみくら」に準じ、各館コレクションのインターネットでの紹介を目指しています。コロナ禍で相談機会の確保が難しく、進捗が遅れぎみですが、少しずつ先に進めているところです。

地域資料は、資料そのものの魅力もさることながら、資料の歴史的背景や収集に至った経緯なども含め俯瞰することで、地域の横顔を描き出す媒介としての役割も果たしてくれます。

おりしも、まち並みの均質化が進み地域文化の独自性が希薄になる中、その流れへのカウンター

として、地域のアイデンティティを理解し、そこから新しい価値を見出そうとする動きもまた生まれてきています。資料の学術的な意味や価値だけではなく、地域資料と現在のまちの姿を照らし合わせながらまちの未来を考える、そんな資料の使われ方がなされると、地域資料の収集・保存に心血を注いできた県内図書館の取り組みにも新しい光が当てられるように思います。

本市では今年度、内閣府の「デジタル田園都市国家構想」の交付金を活用し、市所蔵の古文書などの地域資料を組織横断的にアーカイブ化し「デジタルミュージアム」として公開する事業を進めています。アクセシブルな環境で地域資料が公開されることで、より多くの方に関心を寄せていただけるのではと期待しています。

私たち地域資料委員会も蝸牛の歩みではありますが、神奈川の地域資料を知っていただくための取組を進めていきたいと考えています。

引き続き、県下図書館の皆様のご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

「第24回 図書館総合展 2022_ONLINE_plus」 出展報告



図書館総合展は、図書館界最大級の交流イベントです。例年、神奈川県図書館協会はフォーラム会場での講演会や、ブース会場でのイベントに参加してきました。

令和2年度の図書館総合展は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からオンライン形式での開催となりました。

当協会としてはそのような状況を踏まえ、令和2年度は図書館総合展への参加を見送ることとなりましたが、令和3年度からはオンライン上においてブース出展を行い、令和4年度も引き続きブース出展による参加（開催期間：2022年11月1日〈火〉～30日〈水〉）を行いました。



◆コンテンツの募集

出展ブースに掲載する内容（コンテンツ）については広報委員会を中心に会議を重ね、「役立つ図書館情報の提供」をコンセプトとし、構成等を決めていきました。

コンテンツの募集につきましては、加盟館の皆様から多くのご協力をいただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。

◆コンテンツの内容

《加盟館の活動》

神奈川県立図書館の新しい本館開館に関する情報を始め、各加盟館の期間限定の動画等、様々な活動を掲載しました。

《県内公共図書館の電子図書サービス》

ICT機器の普及や新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響もあり、県内でも電子図書サービスを開始する公共図書館が増えています。

一覧にすることでサービスの違いを比較することができました。

《加盟館のデジタルアーカイブ》

各加盟館において保存する貴重な資料に出会うことができる、大変意義のあるコーナーとなりました。



《加盟館の新しい取組み》

大学図書館での取組み（空中ディスプレイを使用したOPAC、貸出スマホアプリや座席予約アプリ等）を中心とした興味深いコーナーです。



《おうちでも楽しめる図書館コンテンツ》

昨年度に引き続き、図書館サービスを「おうち」で楽しめるよう様々な企画が集まりました。コロナ禍もまだまだ続きますので、加盟館の皆様も是非、参考にさせていただきたいと思います。

◆アンケート

例年の会場開催に比べ、オンライン開催の場合、ウェブサイトを見てアンケートに答えていただく難しさもございますが、今回、アンケートにいただいたご意見の内容を精査し、次年度以降の図書館総合展出展の参考となるよう、活用していきたいと考えます。

◆出展を終えて

今回の出展を通じて、加盟館の様々な取組みを紹介することができました。

図書館総合展には他にも各種イベントやポスターセッション等、多様な参加方法もあり、これからも、加盟館皆様のご意見をお聞きしながら、より効果的な総合展の出展を考えていきたいと思えます。

特集2 新規加盟館紹介

星槎大学図書館情報センター（横浜キャンパス図書館）

星槎大学図書館情報センター（横浜キャンパス図書館）（以下、図書館）は、みなとみらい線「日本大通り」駅直結の横浜情報文化センター5階の星槎大学横浜キャンパス（以下、横浜キャンパス）にあります。

ちなみに、横浜情報文化センターは、歴史的建造物「旧横浜商工奨励館」が12階建ての新館と一体となっている建物です。同施設内には、「日本新聞博物館」や「放送ライブラリー」があり、講演・研修等で使用できる「情文ホール」も併設されています。



横浜情報文化センター

横浜キャンパスには、通学制の星槎大学大学院教育実践研究科教育実践専攻（専門職学位課程）と通信制の星槎大学大学院教育学研究科教育学研究科修士課程及び博士後期課程があり、約150名の学生が学んでいます。

本大学院の学生の多くが、学校関係者、医療関係者、行政関係者等の社会人学生であるため、授業は、土・日・祝日が主で、平日は月・金の2日間のみの実施ですが、図書館は、学生の研究や学修のために年末年始等を除いて毎日開館しています。



星槎大学横浜キャンパス図書館

図書館には、教育学・心理学等を中心に約13,000冊の和書と約600冊の洋書、約50種の雑誌等を所蔵し、閲覧席が32席あります。

その他、横浜キャンパスには、「ラウンジスペース」として、個別の学修机、複数で利用できるテーブル・椅子が配置されており、学生の自主的学修のほか、くつろぎ・交流の場として、グループでの学習の場として活用されています。



図書館内の閲覧席

本大学院の学生は全国に居住しているため、来館での図書等の利用は多くはないですが、スマートフォン等から、郵送貸出の手続きが出来るシステムを導入しているため、来館せずに、自宅から図書の貸出が行えます。また、自宅や職場近くの大学図書館等を利用する学生のために紹介状を発行するなど、インターネット上の様々な情報資源を活用するための指導等を通して、学生の研究や学修の支援を行っています。

今回、神奈川県図書館協会に加盟させていただくことにより、「共通閲覧証」での図書館相互利用は、学生の今後の研究や学修において、大変有意義なものになると期待しております。これから、どうぞよろしくお願いいたします。



連載 わたしのイチオシ

川崎市立図書館「フロンターレ選手と本を読もう！」

今回の「私のイチオシ」は川崎市が担当することになりました。

川崎市は、Jリーグサッカークラブの川崎フロンターレとシティプロモーション、スポーツ振興など様々な形での連携事業を行っています。

なかでも川崎市教育委員会は、「川崎フロンターレと本を読もう！」という事業があり読書活動普及推進に努めています。

これまで、川崎フロンターレのマスコット「ふろん太」を主人公にしたオリジナルの紙芝居（図書館利用がテーマ）の制作や、選手の推薦本が掲載された読書推進リーフレット、選手の写真が入ったしおりの作成等を行い、図書館ほか市内小・中学校での配布を行ってきました。



今回の表紙は登里享平選手

今年でクラブ創立26周年を迎えます。Jリーグでは唯一クラブ名に「26=フロ」が付くフロンターレにとって記念すべき年です。今年で通算14号となるリーフレット「キックオフ！読書のまち・かわさき」では、「26=フロ=風呂」にちなんで「心がほっこりする一冊」を6選手にオススメしていただきました。その一冊は絵本だったり小説だったり様々です。

オススメの理由のほか、大人になってからの本との関わりなどインタビュー形式で紹介しています。



佐々木旭選手によるリフティングも披露

また、11月23日（水・祝）にグランツリー武蔵小杉で「フロンターレ『選手』と本を楽しもう！」イベントが開催されました。

読み聞かせのコーナーでは、佐々木旭選手に「お風呂大好き」、五十嵐太陽選手に「パンダ銭湯」を読んでもらいました。憧れの選手が読んでくれるという珍しさもあって、読み始めると会場の子どもたちは静かに聞き入っていました。

そのほか、選手への質問コーナー、図書館に関するクイズコーナーもあり、マスコット「ふろん太」も登場し、大いに盛り上がりました。



五十嵐太陽選手による読み聞かせ

（川崎市立高津図書館 山本 秀行）